

■高市皇子 天武天皇の第1皇子。母の身分は低かったが、壬申の乱時の対応で信頼を得、太政大臣にまでなった。

たけちのみこ

中臣鎌足紫冠 654＝ 生。天武天皇の第1皇子。母は胸形君徳善の女の尼子娘。

白村江の戦・ 663＝ 9歳：

中臣鎌足没・ 669＝15歳：天武天皇の十市皇女を妃に迎え、
葛野王が誕生。

壬申の乱・ ・ 672＝18歳：母の身分が低いいため皇位継承順位という面では他の皇女腹の皇子たちにおくれをとるが、
*壬申の乱の起こった時、皇子は近江にいたが父天武に喚びよせられ、伊賀で合流する。そして父の命により美濃の不破に行き、不破道を塞ぐ指揮をとる。その翌日には天武を不破へ迎えるが、その折に天武が、近江側には左右大臣・群臣が揃っているのに対し自分には相談の相手もなく、幼少の者ばかりがいるだけだと嘆くと、皇子が剣をとって進み出て、近江に群臣は多くとも天皇(天武)の威力には逆らえない。天皇は1人とはいっても、自分が神祇の加護のもとに天皇の命によって諸将を率いて討てば、誰もかなう者はない、と言う。これを聞いて天武は大いに喜び、以後軍の統帥を皇子に一任する。結局この戦いは天武方の勝利に終わり、その1ヵ月程あとには皇子が天武の命によって近江方の群臣の処罰を行なっている。

・ ・ ・ ・ ・ 678＝24歳：十市皇女が死去、挽歌3首を作り、交情の深かったことを忍ばせる。

・ ・ ・ ・ ・ 679＝25歳：*吉野での6皇子の盟約に参加、

・ ・ ・ ・ ・ 681＝27歳：壬申の乱における功と年長の故に次第に重きをなし、

・ ・ ・ ・ ・ 685＝31歳：_冠位改訂に当っては、皇太子草壁皇子、大津皇子に次ぐ浄広弔の位を授けられた。

天武天皇没・ 686＝32歳：最有力の草壁・大津両皇子と同じ封4百戸の加増を受けている。

浄御原令・ ・ 689＝35歳：_草壁皇子が没して、

持統天皇即位 690＝36歳：*持統天皇が正式即位すると、太政大臣に任ぜられ、公卿百官を従えて藤原の宮地を視察。

・ ・ ・ ・ ・ 692＝38歳：封戸も計5千戸を得、

・ ・ ・ ・ ・ 693＝39歳：_位階もかつての草壁皇子に並ぶ浄広弔を授けられるが、

高市皇子謀殺 696＝42歳：_没した。